



中央区立明石小の写真展、来月3日まで

卒業生ら、署名集めも



校舎保存訴える300枚

関東大震災後に建設された「復興小学校」の一つで、一九二六(大正十五)年に完成した中央区立明石小学校(明石町)の校舎の保存を訴える写真展が、同区銀座のギャラリー403で開かれている。卒業生らでつくる「中央区立明石小学校の保存を望む会」が、区が進める建て替え計画にストップをかけようと緊急企画した。会場で署名も募っている。

旧東京市が、昭和初期までに建てた百十七の復興小のうち、現在も校舎として使われているのは十校。このうち七校が集まる中央区は、明石小を含めた三校を、新年度から順次、建て替える計画を進めている。

同会代表の会社員中村敬子さん(三三)は「最低限の補修で、使い続けることを考えてほしい。多くの人の思い出が詰まった建物を簡単に壊してはいけない」と話している。三月三日まで(一日は休み)。問い合わせは、同ギャラリー☎03(3535)5733へ。

卒業生や近隣住民から集めた約三百枚の写真を展示。玄関の列柱や半円形の窓、ステンドグラスなどが特徴の校舎に加え、カトリック築地教会など近隣の歴史建築も紹介し、周辺と一帯となった「地域の景観」として

明石小の思い出について語る中村敬子さん＝中央区銀座で▶